

最新

Fintech⁺

(22)

三根 公博

ラーメンとビールでなんと8000円！ 「無敵の人」感じたニューヨーク。

ブロックチェーン上の取引・モニタリングサービスなどを提供する米Chainalysis社が主催するイベントに出席するため、約1年ぶりにニューヨークを訪問した。

イベント参加者のうち、約半分は民間、残りは政府機関（FBI、CIAなど）であった。FBIの担当者が足を組んでステージに登壇してサイバー犯罪について議論するという、いかにもアメリカ的な光景に刺激を受けている。

会場はタイムズスクエアと真ん中のホテル。一歩外に出れば、無敵のスーパーヒーロー、スパイダーマンやデッドプールがわんさか歩き回る喧騒が広がっている。

この喧騒の裏には、昨年から続くもう1つの「無敵」の物価高もある。

ハンバーガーとコーラのセットで28ドル（約4200円）、ラーメン・ビールで53ドル（約8000円）。東京の感覚で言えば約4倍である。

ブロードウェイで初めてミュージカルを観劇したのだが（演目は「ライオン・キング」）、席が良かったとはいっても、料金は308ドル（約4万5000円）であった。東京の歌舞伎座の1階後座席が2万円なので、ニューヨークの贅沢は別次元だ。

この驚くべき物価高の下、米トランプ政権は5日に全世界一律10%の基本関税率を適用し、さらに9日から、米国の貿易赤字の状況に応じて各国・地域ごとに上乗せした相互関税を適用した。

日本には24%、中国に至って

は104%の関税が9日から適用される。まさに世界貿易戦争の様相を呈している。

マーケットも大荒れで、7日にNYダウ平均株価の取引時間中の値幅が2595ドルと史上最高を記録し、翌8日の日経平均は取引時間中としては過去3番目となる2100円余りの大きな上昇を見せている。

トランプ大統領は、バンス副大統領の著書「ヒルビリー・エ

と明言している。中国国内で絶対的な権力を持つという意味で、習主席も明らかに「無敵の人」である。いわば「無敵の人」の殴り合いを、世界中がライブ観戦せざるを得ない状態となっている。

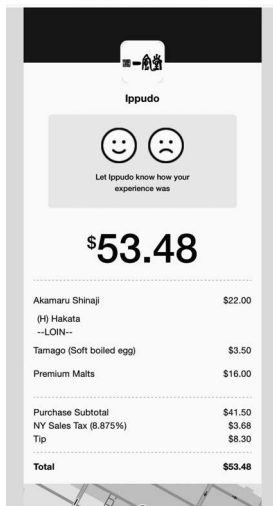
「ヒルビリー・エレジー」のレッドネックたちにとって、気取った都会のエリートたちの資産が減るのは痛快かもしれないが、代償としてウォルマートなどで売られている中国産衣料品の価格が倍以上に跳ね上がるかもしれない。結局、誰にとって何の得があるのか、よくわからない状況になりつつある。

トランプ政権としては、相互関税により財政赤字を埋め、貿易赤字も縮小させる狙いかもしれないが、個人消費や投資まで大幅に落ち込めば米国の経済全体が縮小し、結果として将来的には国力も減殺しかねない。

スパイダーマンやデッドプールが無敵でも、ラーメンの値段は下げてくれない。このまま「無敵の人」の殴り合いが続けば、ラーメンとビールで1万円、下手すれば2万円の時代が訪れるかもしれない。こうなったらアベンジャーズでも呼んで喧嘩面成敗してもらおうか。ただ、どうせアベンジャーズに戦ってもらえば、かっこいいエイリアンと戦う方がニューヨークの街にはふさわしい。

読者のみなさんならば、この殴り合いのエンディング、どう見届けるだろうか。

※お断り 3月10日に掲載した連載ナンバーに誤りがありました。正しくは（21）です。



写真はNYの一風堂（ラーメン店）のシート画面

レジー」（アメリカの白人労働者階級の衰退を描いた作品）に出てくる「レッドネック（首すじが赤く日焼けした白人労働者）」、最近の日本で言えば「無敵の人」（社会的に失うものがなく、どんな手段でも使える人）の米国版の代弁者と言えるだろう。

習近平主席率いる中国は、相互関税に「最後まで付き合う」